

## 2016年度 第1回スターズセミナー報告書

「子どもの貧困問題が問いかけるもの  
～一人ひとりが『今』何ができるか考えよう～」

### 概要

#### 第1部 「海外の子どもの貧困事情と取り組みから」～資生堂児童福祉海外研修修了者による報告と提言～

第1部では、「海外の子どもの貧困事情と取り組みから」をテーマにし、NPO STARSメンバーの、小松卓也氏（フィンランド・オランダ）、野々村一也氏（アメリカ）、香林朋美氏（カナダ）が子どもの貧困事情とその課題への取り組みについて報告した。今回報告があった国々は共通して移民を受け入れている文化があり、それに伴う言葉の問題等が学力の問題になり、自立にも



大きく影響し、貧困問題を引き起こしているような実態があった。それが国として制度や施策に影響を及ぼしてきた印象を受けた。子どもの最善の利益のために各国で取り組んでいる施策を学ぶ良い機会となった。

#### 第2部 ①講演「『子どもの貧困』はなぜ問題なのか」

東京国際大学の村井美紀先生より、子どもの貧困は子どもの成長に影響を与える。たとえば、学力、社会体験、健康、住宅、非行、疎外感に影響を及ぼし、ひいては子ども虐待・貧困の世代間連鎖につながる。子どもの権利の観点から、子どもはゆっくり成長し

たり、遊んだり交流したりする権利、教育や文化にアクセスする権利があるにもかかわらず、それらを大人に求める権利が保障されていないという問題提起



をされていた。全ての子どもが生まれてきてよかったと思えるポジティブな自己肯定感と、希望を叶えるような生き方をしようという意欲と行動力（主体性）を身につけてほしいと願うとともに、そのために「心の安全基地」が必要であると述べられた。

### 第2部 ②シンポジウム「子どもたちの貧困が問いかけるもの～一人ひとりが『今』何ができるか考えよう～」

村井美紀先生の講演を受けて、現場で実践されている、認定NPO法人 青少年の自立を支える会 理事長の星俊彦氏、NPO 法人ゆめ・まち・ねっと代表の渡部達也氏、アフターケア相談所 ゆずりは 所長の高橋亜美氏からそれぞれ講演をしていただいた。星氏は、自立援助ホームが果たしてきた役割と今後の展望について述べられた。親の愛情がない子を支えていくのは当然であり、特別なことではないとも述べられた。渡部氏は虐待等の事件の実態から、経済的な問題以上に、人とのつながりをなくしてしまうことが問題だと言い、「冒険あそび場たごっこパーク」等の地域の子どもへの直接的な活動を通して、成長を見守っていく「居場所」作りに努めているのだと言う。高橋氏は子どもたちに向き合う中で、不適切な養育環境により、「自分を大切に思う気持ち」を根こそぎ削り取られてしまうことで、将来の生きる希望さえも失ってしまうことを指摘しておられた。共通して言えることは、子ども一人ひとりに真摯に向き合い、どんな状況にあっても寄り添い続ける大人の存在が重要であるということだった。最後に村井先生から「今回のセミナーをきっかけとして今後也大いに議論を続けていこう」と参加者へ呼びかけられた。

### 所感

このセミナーは、今まで「フォローアップセミナー」と称して資生堂児童福祉海外研修修了者向けに開催してきたが、昨年より全国各地の関係機関や今後を担う学生等にも参加を呼びかけて開催している。今回は「子どもの貧困」を大きなテーマに掲げ、村井先生はじめ、各実践者の方々による白熱した議論が繰り広げられた。また今回、事情を抱え渡部氏のもとで生活したことが契機となり、現在福祉を志し、短大へ通う方から「私は支援を受けられたが、同じ立場で支援を受けられない人がいる。その子たちも当たり前前に支援を受けられるような社会が必要」という当事者の声を聴くことができ、貴重な機会となった。



他者を否定せず、各々の良さ・強みを生かし多様性のネットを張り、全ての子どもがつながりや関係性の貧困に陥ることなく、様々な人との出会いによって生きていく力を見出すことができるような支援が大切なのではないかと考える。

今回のセミナーの参加者一人ひとりにおいても、各々の立場で現在向き合っている子どもたちが健やかに育つために、身近なことも含めて「今」できる何かを見つけるヒントになったのではないと思う。アンケート結果によると今回のテーマに興味を持ち、満足感を得て帰られた参加者が多く、大変光栄に思う。今後も日本の児童福祉発展のためにNPO STARSは邁進していきたいと思う。

文責 NPO STARS